

今回は 社会連携セミナー さくら塾 の報告です。

## ◇ 発達障がいについて、当事者・支援団体の方の話をうかがいました！

テーマ： 発達障がいって何だろう

講師： 市原レオンさん（靴磨き職人） 清長豊さん（NPO法人アジャスト代表）

日時： 10月18日（月） 16：50～18：10

場所： 桜ヶ丘会館3F

講師紹介： 市原レオンさんは、テレビや新聞でも話題の靴磨き職人です。お仕事の話に加え、自身の発達障がいについても、様々なかたちで発信しています（右写真）。

清長豊さんは、発達障がいの子どもや外国にルーツのある子どもなど、教室で困り感のある子どもを支援する専門家です。関高校には何度も来ていただいています（左写真）。



## ◇ 当日のようす ～生徒の感想より～

◆今回のセミナーに参加して、本当に学ぶことが多く、これからの生き方の参考になりました。ありがとうございます！！

お話を聞いているなかで、レオンさんのポジティブな考え方がとても心に響きました。「障がいをもってしまった」ではなく、「せっかくもったんだから」という捉え方や、「障がいをもってはずかしい、つらい」ではなく、「障がいをもって得だ。ラッキー！」という感じ方に、感銘を受けました。

また清長さんの、環境が、障がいのある方の状態を左右するというお話に驚きました。実はそれを私は今まで知りませんでした。それも、小学校や中学校で障がい者の人が通うクラスがあったのですが、私は「なんでクラスが別にあるんだろう？」と不思議に感じていました。今考えると障がい者の方それぞれに適した環境作りをしやすいためだったのかなと気がつきました。

さらに清長さんの支援者としての姿からも学ぶことが多くありました。清長さんは、レオンさんのお話を聞く際、常に体を向けて目を合わせて会話をされていたように見えました。そうすることで話すときに「しっかり聞いてくれているんだな」と相手が思っ話しやすくなるんだと考えます。また相づちや笑顔で質問に答えてくださり、どんどん悩みを相談したくなるというか、受け止めてもらえるような安心感を感じました。

私は、正直意志が弱いです。誰かに流されそうになる時もあります。ですが、レオンさんから「反対されてもとりあえずやってみる。夢は声に出した方が叶う」という言葉をいただきました。納得できないけど上からの言葉に従うだけでなく、自分の“意志”をもって私の人生を歩みたいと思います。

◆障がいというと、その人が持ったものだと思っていたので、障がいは周りの環境との mismatch で起こっているという話がとても印象深かったです。今回聞いた発達障がいというものは、こだわりや個性が強いからこそ、周りの人達はそのこだわりや個性をつぶさないようにすることが大事だなと思いました。

障がいのある人に「あれしなさい、これしなさい」と押し付けるのではなく、その人がやりたいことをやりたいと思った時にできる体制を整えるべきだと思いました。障がいのある人が生きやすい世の中になるように、障がいというものをよく知っていく必要があると思いました。

◆発達障がいの方とNPOの方のお話を直接聞くことができ、貴重な体験になり、楽しかったです。心に刺さった言葉はNPOの清長さんが話された「障がいは環境とのミスマッチによるもの」という言葉です。障がい者に問題があるわけではなく環境に問題がある。と聞いて考えが改まりました。私たちが違う接し方をしたり、理解がなかったりすることで発達障がいの方にさらに負担をかけてしまい、生きづらい環境を作ってしまう。実際お話を聞くと意識が変わりました。実際に発達障がい者の苦労や辛さを聞いて、理解をもっと多くの人へ広まってほしいと思いました。

◆私は教育の仕事に就こうと思い、今回この講座を受けました。お二人の話を聞いて、「障がいのある本人ではなく、変わる必要があるのは大人や環境である」「話を聞いて理解をしてあげることによってその子の力が最大限に発揮され、毎日が過ごしやすくなる」といったことが分かりました。清長さんは「心理学を学んでおくにより理解をする事ができる」とおっしゃっていたので今後そういった勉強もしたいと思いました。



◆発達障がいと聞くと、一部の人のみとか、環境に馴染めないというマイナスなイメージをもっていました。しかし、今回実際に当事者の方や支援者の方の話を聞いて、障がいはたくさんの方が持っていること、環境を整えることで障がいをもつ人が活躍できることがわかりました。特に印象に残ったのは、海外では障がいを「個性」や「ギフト」と表現するということです。一人一人の特性を活かせる環境をつくることで、発揮できる力はとても大きくなりますし、日本でもこうした考え方が浸透して欲しいと思いました。私は将来教育関係の仕事をしたいと思っているので、今日の経験を将来に活かしていきたいと思いました。

◆私は、今日 お話を聞くまで、発達障がいとは学習面や生活面に強く現れてしまうものだと考えていました。けれど、発達障がいはひとつの個性として尊重すべきものであり、周りの人達がサポートすることや環境を良くすることで 本人に安心感を与えることができ、本来持つ力以上のパフォーマンスをすることも可能なのだと知りとても驚きました。

「こだわりが強かったり、周りに合わせられなかったりするのは その周りの人達の理解が十分でない可能性もある」と言うお話から、私も深く理解をしないうちに印象だけで発達障がいのある人を見てしまう、そのひとりだったとハッとさせられました。

言葉では伝えられない気持ちを理解できるように周りが気を遣って、少しずつ環境を良くし、誰もが「障がいがある・ない」を気にしないで過ごせる社会になればいいなと思いました。本日は貴重なお話をありがとうございました。

◆私は探究活動でジェンダー平等などをテーマに活動しています。その中で『普通』という言葉に違和感を覚えていました。今回市原さんも『普通はない』と仰っていました。海外では障がいがあることをギフトや個性だと言われているということも初めて学びましたし、この考え方は素敵だなと思いました。

また清長さんの話から『発達障害者だからこう』ではなく、一人一人の個性を見て、どれだけその人のことを理解するか、その人の個性をどれだけ生かせるかが、これからの私たち

に必要なことなんだと思いました。

◆市原さんの、「せっかく障がいを持ったのだから」という言葉が心に強く残りました。みんなと違うからおかしいという考えはもう古く、障がいを個性と捉え、強みとして生かしていくことができる社会が必要だと学びました。また、目が悪い私も障がい者の一人だと知って、障がいのことをとても身近に感じ、向き合い方が変わりました。偏見だけで遠ざけてしまわず、みんなが活躍できる環境を私たちが作っていきたいと思いました。

◆今回、発達障がいについての話を聞いて、発達障がいは、社会的不利な条件ではなく、その人が持っている個性なのだ改めて思いました。ただ、その個性が世の中に受け入れられないことが大きな問題のひとつなのだと思います。僕は教員を目指していて、様々な個性を持つ子どもたちにどのように接していけばよいかを考えたくて、この講座に参加しました。短所を克服させることはもちろん大切ですが、長所をさらに伸ばすことがより大切だと分かったので、個性を尊重し、子供たちの長所を生かしていける教員になりたいと強く思いました。今日は貴重な時間をありがとうございました！

◆私が今日のセミナーに出て一番驚いたことは、障がいは個人の問題だけではなく、環境とのミスマッチでも生まれるということです。逆にいうと、環境が良好であれば障がいのあるなしにかかわらず、気持ちの良い生活が送れるということです。私は、将来教員になることを考えていますが、より良い環境作りをしていきたいです。その際の接し方はどうすれば良いか分かりませんでした。教えていただきました。まず自分とはどういう人間なのかをさらけ出すことで関わりがはじまること、そして、障がいを抱える生徒の出来ることを伸ばせるように関わること、既存の教育方法にとどまらない柔軟な関わりかたが求められていると感じました。障がいは海外では神様からの贈り物と捉えられていることを知りました。障がいという言葉にとらわれすぎないひとりひとりを大切な人としてこれからは関わっていきたいと思います。

◆私は発達障がいと言うと自分とはあまり関わりのない人達だと思っていました。実際には身近にいたり、ただそれを理解しようとしてないだけだったと気づきました。また今日お話を聞いた市原レオンさんは、私が想像するような発達障がい者ではなく、健常者のように見えました。しかしそれが大きな障がいとなっていることに今まで気づいていませんでした。

その子が発達障がい者だと知らなければ周りからの理解を得ることもできない。私はいずれ特別支援学校の教諭になりたいと思っています。清長先生のお話では生徒を理解するには半年かかると聞きました。生徒の個性を理解し、伸ばせるような教諭になりたいです。そして障がいに理解をもってもらえるように周りにも伝えたいと思いました。



◆今回清長さん、市原さんの話を聞いて、周りの環境がとても大切なものだと知りました。環境を変える時は、本人の意志を聞いて、決して無理に強いることはしないことが大切だと思います。また、「障がいは人類のバリエーション」という言葉が印象に残りました。「障がい」を「個性」として尊重し、伸ばしていくことは障がい者の可能性を広げることにも繋がるのだと思います。これらのことは障がいの有無に関わらず、全ての人にも当てはまることだと思います。周りとの「違い」を「個性」として伸ばしていくことが当たり前になるようなそんな社会が実現できるように私も

貢献していけたらと思います。

◆今日は貴重なお時間を頂きありがとうございました！発達障がいのある方には、「できること」「経験不足でできないこと」「性質上できないこと」があることを知りました。ドラマの「ドラゴン桜」にもそのような生徒が登場してきており、目で見ただけでは覚えてしまうという点などが同じでビックリしました。周りの人がその人の個性を理解して、その人にあった扱いをしてあげることが大切であることが分かりました。その人にあった環境にすることで、障がい者ではなくなる。環境が合っていないから、障がい者だと言われる。ということを知り、障がい者でも納得しました。これから社会に出ていくにあたり、いろいろな個性を持った人との関わりが増えて行くと思いますが、それぞれの人の個性を理解し、解決策を考え支えられるような人になりたいと思いました。人には、得意、不得意があるので、得意なことを十分に生かすことができる社会になってほしいです。

◆昨日は講演の運営をしていただき、ありがとうございました。貴重なお話を聞いて有意義な時間となりました。嬉しい、更に楽しい、そんな感じでした。

私は発達障がいについて、他の多くの人よりも身近に感じ、理解出来ている方だと思っていました。小学校からADHDといわれる発達障がいのある友人がいたからです。私は初め、彼に対して「どうしてこんなに落ち着きがないのだろう」と思いましたが、状態も日によって波があり、ちゃんと話せば意思疎通が出来るとわかり、寛容に向き合えるようになりました。当時は行動のコントロールが出来ず怪我に巻き込まれたこともあり、周りからは避けられる場面も見てきましたが、昨日のお話で度々あった様に、一度集中した時には目を見張る成果を出していました。

改めて感じたのは、個性がある分、それだけ『天才性』とでもいうべきでしょうか、才能を持っているのだということです。確かに『発達障がい』とはいいますが、全員に強制される行動との相性の問題であって、裏を返せば、その子にしかできない事ができるという事なのだ、周りの支援次第で道が拓かれるのだと胸を打たれました。理解しているつもりでも、結局は一人一人の違った個性と向き合っていく、その事が大切だとわかりました。

◇ 令和3年度 岐阜県道徳教育振興会議 研究指定校として

令和3年度、関高校は、岐阜県道徳教育振興会議より研究指定を受けました（関ブリッジジャーナル第31号）。活動の具体的目標に、「多様な価値観や生き方を尊重し、共生をめざす地域社会のリーダーの育成」や「社会課題の解決を自己の生き方と重ねて考え、思いやりと寛容の精神で他者と向き合えるリーダーの育成」を掲げ、FRH・SGH事業と連動させながらの活動を実践しています。

感想文からも明らかのように、セミナーを受講した生徒にとっては、自らを振り返り、多様な価値観・生き方について考える絶好の機会となったようです。一昨年、清長さんのセミナーを受講した生徒が、今回の催しに参加し、「特別支援学校の教員をめざしています」と報告するなど、継続的なキャリア教育の成果が少しずつあらわれている様子もうかがえます。

